

4-6月の下請債権保全支援

81件、8億円と急増

北保証サービス

北海道建設業信用保証「ス(本社・札幌、小林健一)度4-6月の「下請債権グループの北保証サービス(二社長)は、2011年「保全支援事業」の取り扱

い実績をまとめた。元請け建設会社が倒産した場合に保証金を支払う保証フアクタリングの契約件数が計81件に伸び、保証金額も8億207万2000円と10年度同期の2・8倍に急増した。受注競争が激化する中、しわ寄せを嫌う下請け業者に与信管理の徹底が浸透している。

北保証サービスは、約束手形や売掛金などの工事代金債権を保証料率の範囲内で保証するフアクタリングを取り扱っている。国土交通省が1次以降の下請け建設会社や資材会社を対象に連鎖倒産を防ぐために創設し、保

証制度を拡充している。4-6月の内訳は、手形保証が45件、4億1632万5000円で、そのうち手形割引(現金化)は7件、3603万7000円を占める。次いで売掛金保証は31件、2億7821万1000円。10年12月から始めた極度額を支払う枠保証は、5件、1億753万5000円の実績がある。

4月が36件、2億8991万3000円、5月が21件、2億3345万円、6月が24件、2億5994万8000円。いずれも2億円を突破し、中でも5月は10年度同月の7・8倍に達している。

同社によると「リピーター」の利用が多く1社で月に3回使う企業もあること急増の理由を語り、背景には受注競争の激化で利益率が下がる中、工事代金などが確実に回収できるよう「信用調査機関などの情報を参考に与信管理が徹底している。債権の受け付きが簡単に穴埋めできないような経営環境にある」と厳しい実態をうかがわせる。

10年度の実績は249件、22億6831万7000円だが、このまま推移すると11年度実績が前年度を上回るのは確実な勢いだ。